

『Lines of Sight ～それぞれのアジアへの視線～』

● PFWトップページ ● NPIトップページ

Title: 「股旅—gdeh special—」



山市 直佑
1985年栃木県生まれ。祖父母に多大な影響を受けながら育つ。薄い原健児の気持ちを今でも忘れない。日本写真芸術専門学校助手を経て、現在大学院生兼任フリーランス。

● 最近のエントリー

2010.8.5
(2010.08.06)

● アーカイブ

Oktober 2012
März 2011
September 2010
August 2010
März 2010
Februar 2010
März 2009
Februar 2009
November 2008
Oktober 2008
September 2008
Juli 2008
Juni 2008
April 2008
Januar 2008
Dezember 2007
November 2007
Juli 2007
Mai 2007
April 2007
März 2007
Februar 2007
Januar 2007
Dezember 2006
November 2006
Oktober 2006
September 2006
August 2006
Juli 2006
Juni 2006
Mai 2006
April 2006
März 2006

● 投稿カレンダー

カテゴリー一覧
[countries report](#)

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future

RSS 2.0

10.08.06

2010.8.5

[Tweet](#)[Check](#)

この2ヶ月で、直正、人生が変わるんじゃないかって思うくらいの出会いを果たしてしまった。
否、人生が変わるんじゃなくて、将来を考え直す、的な。とても良い意味で。

今年の2月末に師匠と写真の話をして、その次の日か次の次の日くらいに奥と君島と三人で会うなんでおもしろいことをして、そこから3月と4月はひたすら撮影を重ねた。4×5で日々。そこからフィルムをモノクロからカラーにしたり、あれだこれだとやってみたり、あそこ行ってみよう、を増やしたり、東京の地図をくるくるまわして歩いてみたり、壁にぶつかる気分に追い込まれることの方が断然多かったけれど、3～5月の3ヶ月でフィルムが120枚を超えたときに、なんとなく、プリントをしなくちゃと思い立って、パソコンに向かおうとしている矢先にテストとレポートに追われ始まった@YNU。

めまぐるしかったな、6月と7月。その間に、殊、7月に、大学の教授と話す機会がグンッと増えて、あれよあれよという間に教授と話が進んで、なぜだか知らないが論文を書くことになりました。

卒論じゃない論文。言わんとしてすることは察してください。

でも写真じゃなきゃだめなんだ、って本気で感じた論文の主題でした。写真やっててほんとに良かった。

これからももっとたくさんの場所に行って、人に会って、写真撮って、文献読んで、もっとたくさんの場所に行って、人に会って、写真撮って、文献読んで…の繰り返しが続くんだろう、と本気で幸せな気分に浸った。

それでもって、表題の今日、ようやく大学のテストがすべて終了して、明日から、全く違う作品の発端をつかみに西日本をぐるっと回ってきます。ここ半年間、いや1年か、ずっと考えていたことで、それをイメージとして探せたら、いちばん素敵。

約一ヶ月間、論文書きながら取材して、写真撮りためて帰ってきます。作品の発表が遅れてる遅れると師匠に言われているのもわかるんだけれど、今は本気で発表よりも撮りたい。見て撮りたい。年末までにこの夏のとっかかりも一つのまとまりになることを願って。

今月末、関東に帰ってきたら怒濤のレタッチ→プリントを行おう。

まだまだ見てきた写真がすごく少ないということを思い知り、もっともっと新しいアートが絶えず生まれていて、それを見なきゃ観なきゃいけない、聞かなきゃ聴かなきゃいけない、と焦るけれど、そもそも大事だけれど、やっぱり目の前に広がる風景とか出会っちゃった人と強制的に対峙する、その瞬間を。

これから夏が始まります。

皆々様もどうか、熱中症なんかにならないでください。

カテゴリー：

post by 山市 直佑 | 日時: 2010.08.06 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#)